

～ 都会と農村を結ぶコーディネーター ～
大下克夫さん（八幡浜市）

かんきつ農家（真穴柑橘共同選果部会所属）

1968年生まれ

ホームページ <http://www.marumamikan.com/>
（真穴柑橘共同選果部会）



☆経営概況☆

温州みかん専作で、早生温州 160a、南柑 20号 40a、合計 200a を栽培しています。労働力は家族労働が主体（2人、妻）で、みかんの収穫期に5人ほど雇用を入れています。作業効率を考えて、改植や低樹高栽培に取り組んでいます。

☆ここがポイント☆

■新潟から参入～真穴で研修～養子になるまで

新潟県三条市の出身です。父は一代で従業員3名を抱える工務店を築き上げた大工の棟梁で、その三男です。動物が好きだったことから、帯広畜産大学に進み、進路を考えた時、サラリーマンに抵抗を感じ、たまたま広げた地図の中で、九州に飛び出た佐田岬に目がとまり、自分からアクションを起こした結果、真穴青果農協で2年間の実習を受け、就農しました。空家を見つけ、みかん園 50アール、キウイ園 20アールで農業をスタートしました。就農してから3年目に地元の農家の娘さんとお月見会で知り合い、結婚、養子になりました。

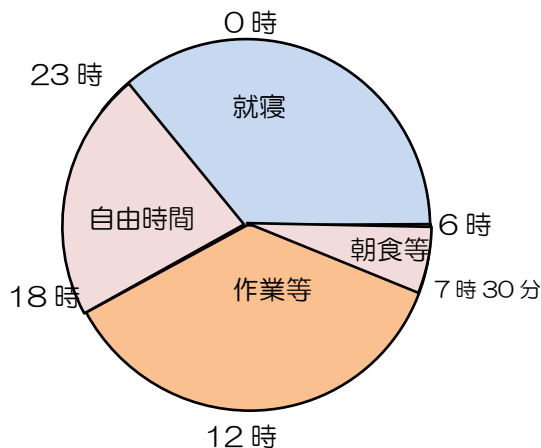
■都会と農村のコーディネーターとして（1ターンの頼れる兄貴、養子組合の活動）

真穴地区は、昔からアルバイト事業（みかんの繁忙期に都会の若者をホームステイさせ収穫作業の雇用）に取り組んでおり、現在ではそれが発展して、JA全体で西宇和みかん支援隊として組織化が図られ、就農・農作業体験者の受入れ、援農者の確保等に取り組んでいます。私は地元の真穴担い手支援チームの代表を務めています。自分も経験したことから、毎年、数名の1ターン農家の受入れ等を積極的に行い、東京へ出向いて愛媛移住フェア等へ参加したり、都会の小中学校でみかんの出前授業を行ったりして、愛媛やみかん農家のPRを行っており、マスコミに取り上げられ、講演にも呼ばれます。

また、私と同様の地区外から養子に来た仲間で「養子組合」を結成して、夏休みにお化け屋敷を開いたり、海岸清掃、旅行、定期的な飲み会を行い、親睦を深めています。



【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

休日は、長女のバレーボールの試合の応援や愛犬のアリスと戯れたりしています。また、ライフワークとして力を入れているのが、「真穴写真展」です。グラフィックデザイナーや国際的に活躍する写真家に手伝っていただき、真穴という日本の原風景を後世に残すため、県美術館をはじめ、さまざまな場所で写真展を開催しています。

養子組合での活動は、6月5日（むこ）か8月4日（ようし）に行っています。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】	11~12月	収穫・選果作業、農休日	ほとんどなし			
【暇時期】	1~2月が比較的空いています。6月からは摘果作業が本格化し、収穫に突入します					
		農作業等				農休日



☆これからの夢や目指すもの☆

自身の経験を生かし、都会と真穴のコーディネーターとなり、地区外から若者を引っ張ることで、後継者問題を解決し、産地を維持していきたい。「みかんづくりは真穴」となるよう、出前授業等でPRを行い、さまざまなメディアを活用し、広めていきたい。真穴写真展をいろいろな場所で開催し、真穴のPRを行いたい。

☆メッセージ☆

農業・農村には高齢化問題など、さまざまな課題が山積していますが、私のような地区外のもの飛び込むことで、田舎はもっともっと活性化されます。私がコーディネーターとなって都会からやってきた1ターン者が、「みかん農家になって良かった」と言ってもらえるよう、頑張っていきたいと思います。

真穴でみかんづくりをやりませんか？都会からの参入をお待ちいたしております。

